

取扱説明書

OPERATION MANUAL

ヤンマーガソリン発電機

G900iS(2)

適用号機 110651 ~

YANMAR

おねがい

ヤンマー商品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本書には、商品の安全性に関する情報と商品の正しい取り扱い方法および簡単な点検・調整について説明してあります。

万一、取り扱いを誤ると重大な事故や故障の原因となります。

あなた自身の安全と環境や住民の方との調和のために、また商品の性能を十分に発揮させるために、商品の取り扱いを十分ご存じの方も、この商品独自の装備・取り扱いがありますので、ご使用前に必ず本書を最後までお読みください。なおご使用时には本書を携帯し、安全に商品をご使用くださいますようお願い申し上げます。

*本書では、正しい取り扱いおよび点検・調整に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。



安全に係る注意情報を意味しています。



取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る危険が差し迫って生じると想定される場合を示してあります。



取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。



取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。



正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

- 仕様変更などにより、本書のイラストや内容が一部実機と異なる場合がありますのでご了承ください。
- 保証書はよくお読みいただき、裏面のお買い上げ日、販売店の記入をご確認ください。
- 本書は大切に保管し、わからないことや不具合が生じたときにお読みください。なお本機の転売や譲渡などをされる場合は必ず添付してください。
- 当社製品及び関係技術資料を輸出もしくは非居住者に提供する、または海外で技術提供をする場合、安全保障貿易管理に関する日本及び関係各国の関連法規制を受ける場合があります。確認の上、必要な手続きを実施してください。

取扱説明書	名 称	G900iS(2)
	コード	0AKH2-JA0402

目次

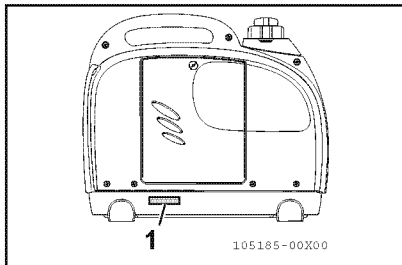
おねがい.....表紙裏（表 2）	始業点検..... P25
本体識別番号..... P1	• 燃料（無鉛ガソリン）の点検..... P25
安全にお使いいただくために..... P3	• エンジンオイルの点検..... P26
⚠ 危険..... P3	• その他の点検..... P26
⚠ 警告..... P3	点検..... P27
⚠ 注意..... P4	• 始業点検..... P27
環境への配慮..... P4	• 定期点検..... P27
重要ラベル..... P5	• 始業点検項目..... P28
⚠ 危険ラベル..... P5	• 6 カ月ごと点検項目..... P28
⚠ 警告ラベル..... P6	• 12 カ月ごと点検項目..... P28
⚠ 注意ラベル..... P6	定期運転・定期交換..... P29
その他ラベル..... P6	• 定期運転..... P29
各部の名称..... P7	• 定期交換..... P29
各部の取り扱い..... P9	定期点検・整備ご相談窓口のご案内..... P30
• オイル警告装置..... P9	やさしい点検・調整..... P31
• エンジンスイッチ..... P9	• エンジンオイルの交換..... P31
• エコノミースイッチ..... P10	• スパークプラグの点検と清掃..... P35
• 周波数切替スイッチ..... P10	• エアクリーナエレメントの清掃..... P37
• オイル警告ランプ..... P11	• 燃料タンクフィルタの清掃..... P39
• 過負荷警告ランプ..... P11	• マフラワイヤネットの清掃..... P40
• 出力表示ランプ..... P12	故障診断..... P41
• 燃料コック..... P12	• エンジンが始動しない..... P41
• チョークノブ..... P12	• 電気が出ない..... P41
• 直流プロテクタ..... P13	運搬..... P42
• アース端子..... P13	保管・格納..... P44
• リコイルスタータハンドル..... P14	• 保管..... P44
• 携帯工具..... P14	• 格納..... P47
給油..... P15	仕様諸元..... P49
• 燃料（無鉛ガソリン）の給油..... P15	索引..... P51
• エンジンオイルの給油..... P17	
正しい運転操作..... P18	
• エンジンの始動..... P18	
• エンジンの停止..... P20	
• 交流電源の取り出しかた..... P21	
• バッテリー充電の際の厳守事項..... P23	
• 交流電源の使用可能範囲..... P24	
• 直流電源の使用可能範囲	
（12 V 外部バッテリー充電専用）..... P24	

本体識別番号

● 本体識別番号

商品名、本体識別番号（本体識別番号ラベル（1））
などは問い合わせや部品を注文するときのために
記入しておいてください。

万一の盗難時のために商品名、本体識別番号は他の資料にも記録しておいてください。



商 品 名

--

本体識別番号

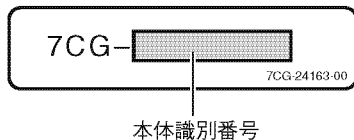
--

購入年月日

年 月 日

電話

本体識別番号



安全にお使いいただくためにお守りください

運転、保守、点検の前に必ずこの取扱説明書とその付属書類、および商品本体に貼付されているラベル全てを熟読し、正しくご使用ください。商品の知識、安全の情報そして注意事項の全てに習熟してからご使用ください。

危険

(行為を禁止する警告文)

- 排気ガス中毒のおそれあり、排気ガスがこもる場所で使用しないでください。排気ガスは一酸化炭素など有害成分を含んでいますので、室内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク、マンホールなど換気の悪い場所や建物や遮へい物で風通しの悪い場所等の排気ガスがこもる場所で使用しないでください。

警告

(行為を禁止する警告文)

- 警告ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。
- 商品の周囲を囲ったり、箱をかぶせて使用しないでください。
- やけどのおそれあり、使用中や使用直後はマフラ部が熱いのでマフラやマフラ周辺のプロテクタには手足を直接触れないでください。
- 火災のおそれあり、給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。
- 感電、火災のおそれあり、電力会社の電気配線に接続しないでください。接続しますと電気器具や商品の故障、または火災や電気工事関係者の感電事故の原因となります。
- 感電のおそれあり、ぬれた手で商品进行操作しないでください。
- 感電のおそれあり、コンセントにピンや針金などの金属物を差し込まないでください。
- 感電やけがのおそれあり、運転中は点検整備を行わないでください。
- 感電やけがのおそれあり、改造したり、部品を取り外したまま使用しないでください。

警告

(行為を指示する警告文)

- 商品を他人に貸すときは、必ず取扱説明書もいっしょに貸してください。
- 排気ガス中毒や火災のおそれあり、排気口を建物や設備から1メートル以上離して使用してください。
- 火災のおそれあり、燃料の給油はエンジンを停止してから行ってください。燃料のガソリンは、高い引火性と爆発性がありますので、取り扱いには十分注意してください。特にエンジン始動前には、ガソリンの漏れがないことを確認してください。

- 火災のおそれあり、給油時にこぼれた燃料は布きれなどできれいに拭き取ってください。
- 燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は、石鹸と水で直ちに洗い、衣類は取り換えてください。
- 燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合には、直ちに医師の診察を受けてください。

▲ 注意

(行為を禁止する注意文)

- けがのおそれあり、傾斜させて使用しないでください。
- けがのおそれあり、運転中は移動させないでください。
- けがのおそれあり、商品の回転部に棒や針金を入れないでください。
- 感電のおそれあり、運転中はスパークプラグにさわらないでください。
- 感電のおそれあり、雨や雪の中で使用しないでください。
- 感電、けがのおそれあり、子供に使用させないでください。
- 感電、けがのおそれあり、エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。
- 火災のおそれあり、商品の周囲や下に危険物（油脂類、セルロイド、火薬など）や燃えやすいもの（枯れ草、わらくず、紙くず、木くずなどの可燃物）を置かないでください。
- 火災のおそれあり、定格出力を超えた過負荷で使用しないでください。

▲ 注意

(行為を指示する注意文)

- 火災のおそれあり、燃料の種類と規定容量を守って使用してください。
- 商品を自動車などで運搬する場合には、倒れないようにしっかり固定してください。
- 毎回使用前に行う始業点検や定期点検は必ず実施してください。
- 使用中に音、臭気、振動などの異常を感じたら、直ちにエンジンを停止して販売店もしくはサービス店の点検を受けてください。

環境への配慮

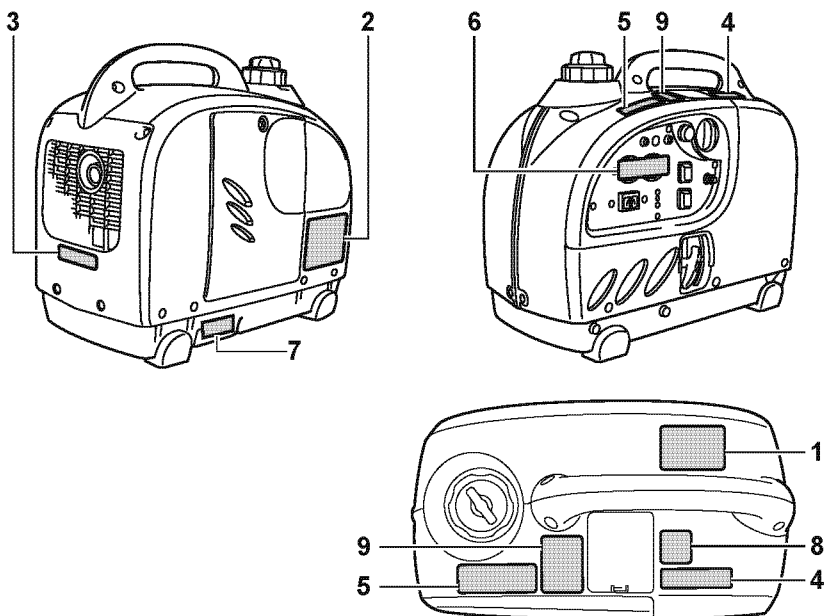
将来、廃棄される場合および廃油などの廃棄処理をされるときは、環境保護のため、お買い上げのヤンマー販売店にご相談ください。

重要ラベル

商品本体に貼付されているラベル全てを熟読し、正しくご使用ください。

注記

ラベルは常に手入れを行い、破れたりはがれたりした場合はヤンマー販売店にご相談して、直ちに新しいものと交換してください。



105186-00X00

⚠ 危険

ラベル

1

⚠ 危険

- 発電機を屋内で使用すると数分で死に至るおそれがあります。
- 排気には目に見えず臭いもない有毒ガスである一酸化炭素が含まれています。

屋内やガレージ等の部分的に囲まれた区域では絶対に使用しないでください。	開いた窓、ドア、通気口から離れた屋外でのみ使用するようにしてください。
--	--

**警告**

ラベル

2

火気厳禁	▲ 警告 火災や爆発のおそれあり ・給油中はエンジン停止のこと。 ・ガソリンを排出口に火気を近づけないこと。 ・こぼれたガソリンは完全に拭き取ること。 ・可燃物のそばで使用しないこと。 ・「燃料・空燃比調整」は燃費を「OFF」にし、 また燃料給油キャップつまみを右方向に 止まるまで回し、「OFF」にすること。	▲ 注意 使用前におき取扱説明書をよく読んで安全にお使いください。 YANMAR G900IS エンジン 定格電圧 100V 定格電流 9.0A 定格出力 900VA 定格出力周波数 50/60Hz 相 単相 容量 1.0 直流 定格電圧 12V 定格電流 8A 燃料 軽油 7VV-24162-Y3
	感電や火災のおそれあり ・電力会社からの電気配線に接触しないこと。	OIL 軽油 7VV-24162-Y3

3

▲ 警告	やけどのおそれあり、排気口 にさわらないこと。 高温注意 7VV-28176-00
----------------------------	--

**注意**

ラベル

4

▲ 注意	感電のおそれあり、 スパークプラグに さわらないこと。 高電圧注意 7VV-2415A-00
----------------------------	--

その他ラベル

5 燃料コック操作

開 閉 上部つまみ	燃料給油キャップ上部つまみ操作方法 運転時：上部つまみを軽く閉めてください。 運転時：閉まった状態から上部つまみを 反時計方向へ1回転まわってください。
----------------------------------	---

6 周波数切替スイッチ

この発電機は 50Hz/60Hz 切替式です。
 工場出荷時は 50Hz にセットされています。
 60Hz の地域の方は、取扱説明書を参照
 いただき、60Hz にセットしてください。

8 「LEMA」ラベル

（「排出ガス」自主規制適合マーク）



7 本体識別番号ラベル（P1 参照）

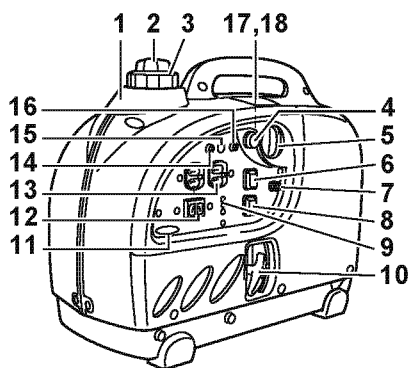
9 始動要領

始動要領

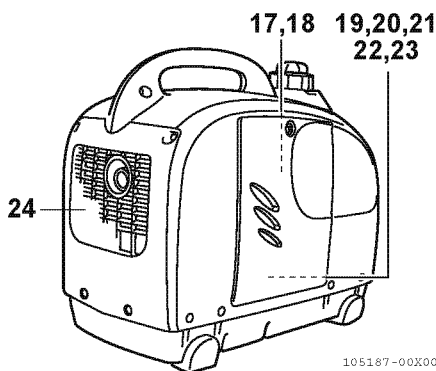
- ・コンセントから全ての電気器具を取り外す。
- ・エコノミースイッチを「OFF」にする。
- ・燃料キャップ上のグレーのつまみを左方向に1回転回す。
- ・燃料コックを「ON」にする。
- ・エンジンスイッチを「ON」にする。
- ・チョークノブを引く。
- ・リコイルスターターハンドルを勢よく引く。
- ・エンジンが始動し、回転が安定したら
 チョークノブを戻す。

7CG-25134-00

各部の名称

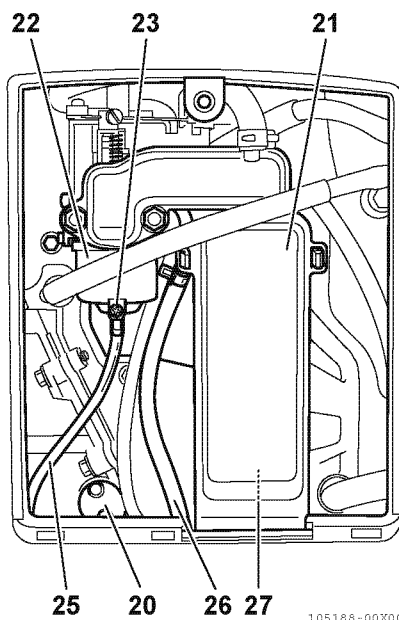
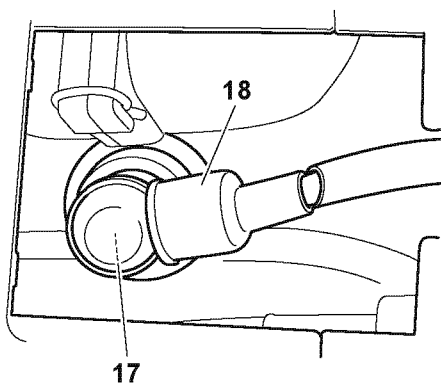


- 1- 燃料タンク
- 2- 燃料給油キャップつまみ
- 3- 燃料タンクキャップ
- 4- チョークノブ
- 5- 燃料コック
- 6- エンジンスイッチ
- 7- アース端子
- 8- エコノミースイッチ
- 9- 直流プロテクタ
- 10- リコイルスタータハンドル
- 11- 周波数切替スイッチ
- 12- 直流コンセント
- 13- 交流コンセント
- 14- 過負荷警告ランプ
- 15- 出力表示ランプ



105187-00X00

- 16- オイル警告ランプ
- 17- スパークプラグ
- 18- スパークプラグキャップ
- 19- オイル警告装置
- 20- オイルプラグキャップ（オイル注入口）
- 21- エアクリーナケース
- 22- キャブレタ
- 23- ドレンスクリュ
- 24- マフラ
- 25- ドレンパイプ
- 26- エアベントホース
- 27- エアクリーナエレメント



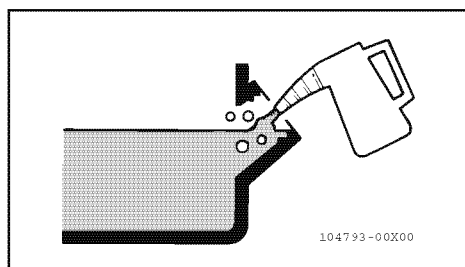
105188-00200

各部の取り扱い

• オイル警告装置

エンジンオイル量が少なくなって潤滑不足になる前に、自動的にエンジンを停止させます。

エンジンオイル量が少ない状態でエンジンが停止したときは、リコイルスタータハンドルを引いてもエンジンは始動しません。エンジンオイル量を確認しヤンマー純正 4 サイクルガソリンエンジンオイルを注入口の口元まで給油します。



注記

- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行ってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ず拭き取ってください。

• エンジンスイッチ

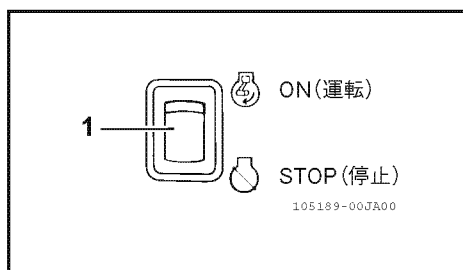
エンジンスイッチ（1）は点火系統を制御しエンジンの運転、停止を行います。

STOP（停止）

エンジン停止および保管時の位置です。

ON（運転）

エンジン運転時の位置です。



▲ 注意

発電機を使用しないときは、エンジンスイッチを STOP（停止）の位置にしてください。

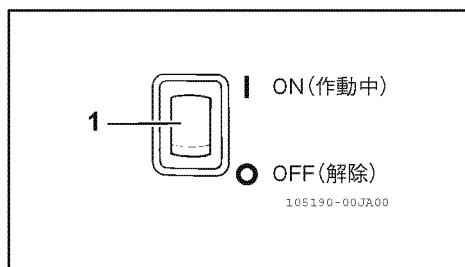
● エコノミースイッチ

エコノミースイッチ (1) はエコノミーコントロール装置の作動・解除を行います。
ON (作動中)

エコノミースイッチ (1) を ON にするとエコノミーコントロール装置が作動します。電気機器を運転すると、自動的にエンジンは負荷の大きさに応じた回転となり、運転しないときは自動的に低速回転になります。

OFF (解除)

エコノミースイッチ (1) を OFF にするとエコノミーコントロール装置が解除されます。電気機器の使用の有無にかかわらずエンジンは定格回転で運転します。

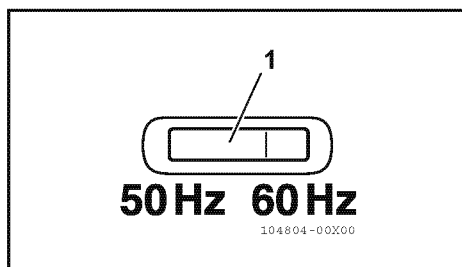


注記

- 気温が 3 ℃ 以下の場合エコノミースイッチが ON (作動中) でも自動的に約 5 分間 5000 r/min で暖機運転し、気温が 3 ℃ 以上の場合は約 3 分間 4000 r/min で暖機運転します。
- コンプレッサ、投光機などの電気負荷が大きい場合はエコノミースイッチを OFF (解除) の状態で使用してください。

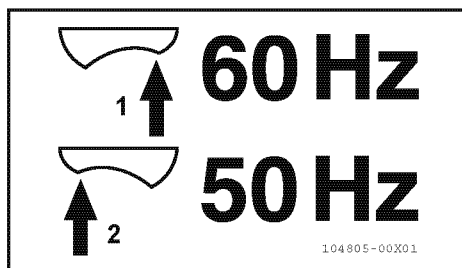
● 周波数切替スイッチ

周波数切替スイッチ (1) は利用する器具の周波数に合わせて周波数を 50 Hz か 60 Hz のいずれかに切り替えるスイッチです。



60 Hz 仕様の電気器具を接続するときは、周波数切替スイッチの 60 Hz 側 (1) を押してください。

また、50 Hz 仕様の電気器具を接続するときは、周波数切替スイッチの 50 Hz 側 (2) を押してください。



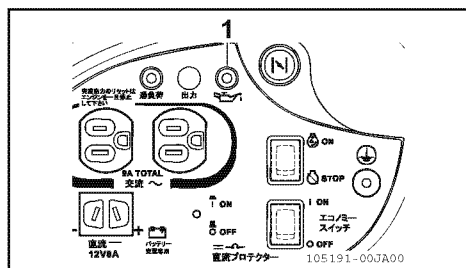
注記

- 購入直後、周波数切替スイッチは 50 Hz にセットされています。
- 周波数の切り替えはエンジンが停止中に行ってください。
- 電気器具の周波数が不明の場合は、電気器具会社にご相談ください。

各部の取り扱い（つづき）

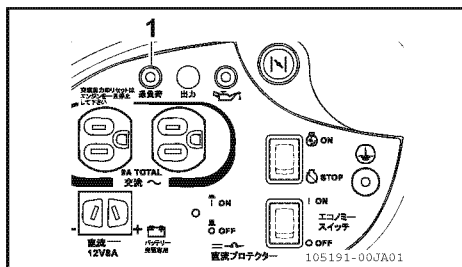
• オイル警告ランプ（赤色）

オイル警告ランプ（赤色）（1）は運転中にエンジンオイル量が規定以下になると点灯し自動的にエンジンを停止させます。また、始動時にエンジンオイル量が規定以下になっているとリコイルスタータハンドルを引いてもオイル警告ランプ（赤色）（1）が点灯し、エンジンは始動しません。



• 過負荷警告ランプ（赤色）

過負荷警告ランプ（赤色）（1）は接続された電気機器から定格出力を超える電気を要求されたときに点灯します。発電機は電気の供給を遮断しますがエンジンは停止しません。

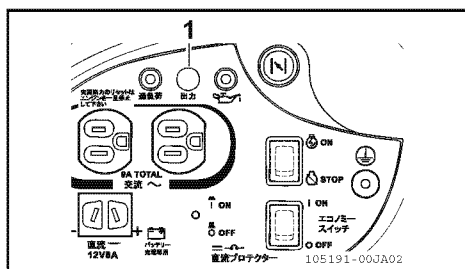


注記

発電を再開する場合は一度エンジンを停止し、再度エンジンを始動してください。
なお、過負荷警告ランプ（赤色）は自動的に消灯します。

● 出力表示ランプ（緑色）

出力表示ランプ（緑色）（1）はエンジンを始動し電気が発電されると点灯します。



● 燃料コック

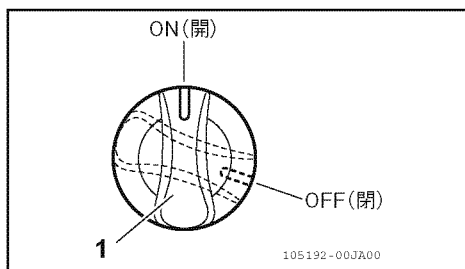
燃料コック（1）は燃料の流れを制御します。

ON（開） — 燃料は流れます。

始動および運転時の位置です。

OFF（閉） — 燃料は流れません。

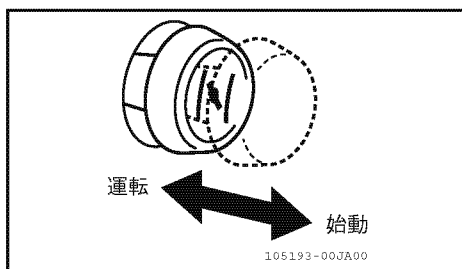
停止および保管時の位置です。



● チョークノブ

始動 — エンジンを始動させるときのノブの位置です。

運転 — エンジンを運転するときのノブの位置です。



各部の取り扱い（つづき）

- 直流プロテクタ

ON (入) — 直流が取り出せます。

(通常はこの位置になっています。)

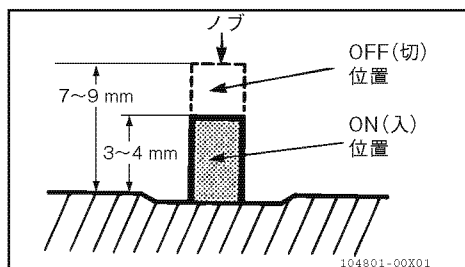
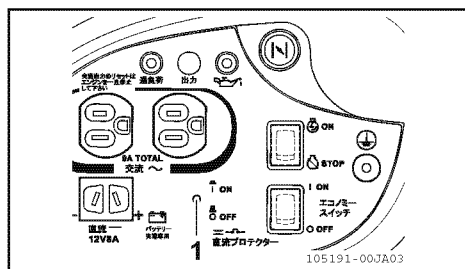
OFF (切) — 直流が取り出せません。

▲ 注意

- 直流プロテクタ (1) が ON (入) のときはノブを押さないでください。
- 直流プロテクタ (1) が OFF (切) になる場合は、接続されている負荷を発電機の指定定格出力以内に減らしてください。それでも OFF (切) になる場合はヤンマー販売店に相談してください。

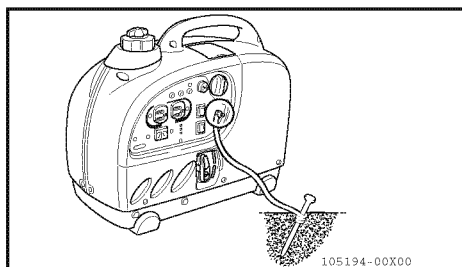
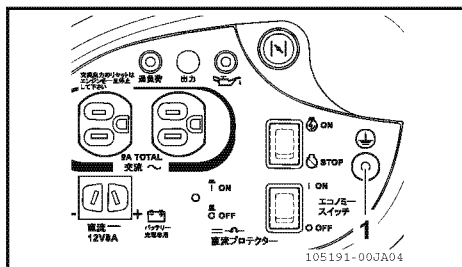
注記

電気機器を使用中に定格以上の電流が流れると自動的に OFF (切) になります。
再度使用する場合はノブを押し込んで ON (入) にしてください。



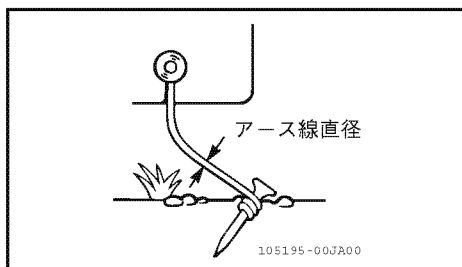
- アース端子

感電防止のアース線を取り付ける端子 (1) です。



注記

アース端子から大地にアースしてください。



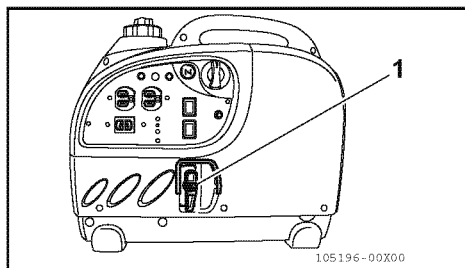
アース線直径の参考

0.12 mm/ アンペア

例 1.2 mm/10 アンペア

- **リコイルスタータハンドル**

リコイルスタータハンドル（**1**）はエンジンを始動させるときに使用します。



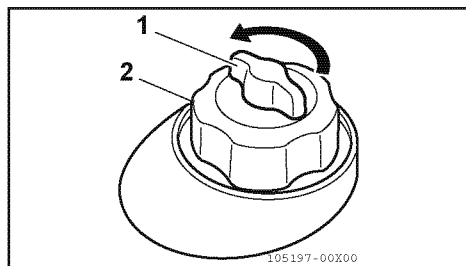
- **携帯工具**

発電機に携帯工具が同梱されています。
点検・調整の際にご使用ください。

給油

● 燃料（無鉛ガソリン）の給油

燃料給油キャップつまみ（１）を左方向に１回転回します。燃料タンクキャップ（２）をゆるめます。



注記

燃料給油キャップつまみは燃料タンク内と外気との通路を開閉する装置です。発電機を運転する前にゆるめ（通路を開く）、運転を終了したあとに締め付け（通路を閉じる）ます。

燃料タンクキャップを外し、燃料（無鉛ガソリン）を赤レベルまで給油します。

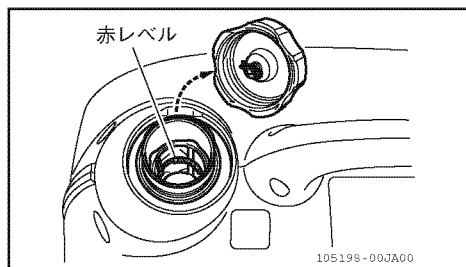
燃料タンク容量

2.5 L（赤レベルまで）

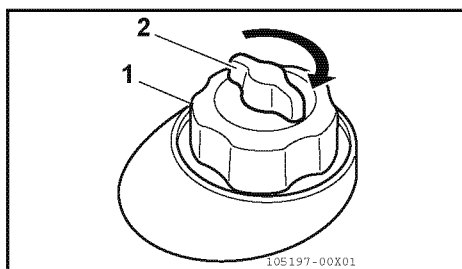
使用燃料

無鉛ガソリン

（自動車専用レギュラーガソリン）



給油後は燃料タンクキャップ（１）を確実に締め付け、燃料給油キャップつまみ（２）を右方向に止まるまで回します。



警告

燃料のガソリンは高い引火性と爆発力がありますので、次の事項を必ずお守りください。

- 給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行ってください。
- 給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また給油ノズルを給油口に当てるなどして静電気が発生しないように注意して行ってください。
- 燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合は、直ちに医者診断を受けてください。また燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石鹸と水で直ちに洗い、衣類は取り換えてください。
- 燃料タンクキャップは確実に締めてください。

注意

- 燃料の給油時、燃料タンク内に水・雪・氷が入らないように注意してください。またこぼれたときは、直ちに布きれなどで完全に拭き取ってください。
 - 燃料は規定量以上（ストレーナの赤レベル以上）給油しないでください。
-

注記

- 燃料はゆっくりと給油してください。
 - 燃料は全部なくなる前に、できるだけ早めに補給してください。
-

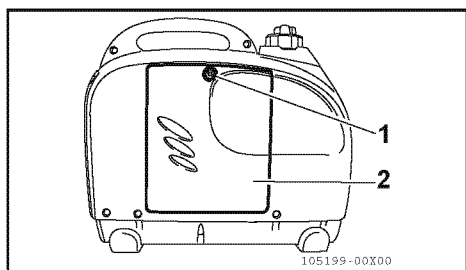
給油（つづき）

• エンジンオイルの給油

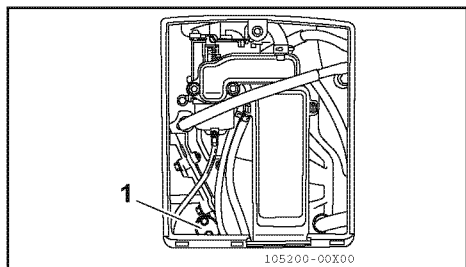
注記

給油の仕方は「エンジンオイルの交換」(P31) も参照してください。

ボルト（１）をゆるめて、カバー（２）を取り外します。



オイルプラグキャップ（１）を外します。



ヤンマー純正４サイクルガソリンエンジンオイルを注入口の口元まで規定量給油します。

エンジンオイル規定量

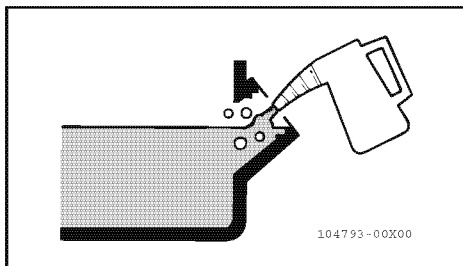
320 mL (320 cm³)

使用オイル

ヤンマー純正４サイクルガソリンエンジンオイル

API 分類 SE 級エンジンオイル

SAE 10W-30



▲ 注意

- 工場出荷時にはエンジンオイルが給油されていませんので購入後、最初に使用するときにはエンジンオイルを規定量給油してください。
- エンジンオイルを規定量以上に給油しますとエンジン不調になるおそれがあります。

注記

- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行ってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ず拭き取ってください。

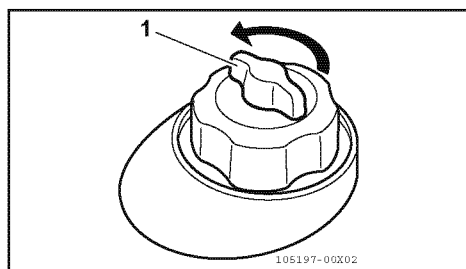
正しい運転操作

● エンジンの始動

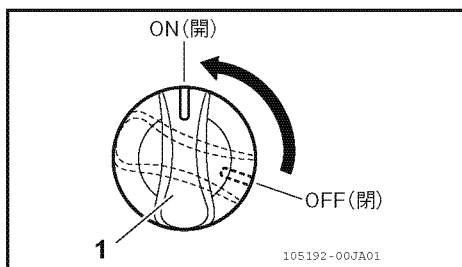
▲ 注意

- 新規購入後の 1 回目は、燃料タンクに燃料を給油しても、自動的に全ての始動系統には燃料が供給されません。そのため、エンジンが始動するまでに約 10 回リコイルスタータハンドルを引く必要がある場合があります。
- 換気や風通しが不十分で排気ガスがこもる場所ではエンジンを始動しないでください。
- エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。
- エンジンを始動する前に周波数切替スイッチの周波数と接続する電気器具の周波数が同じであるか確認してください。

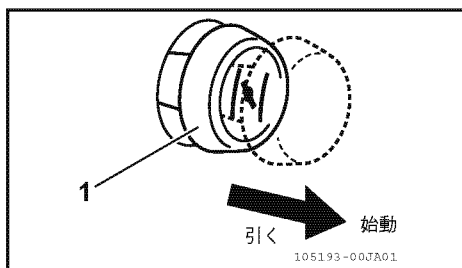
1. 燃料（無鉛ガソリン）の量を点検します。
2. 燃料給油キャップつまみ（1）を左方向に 1 回転回します。



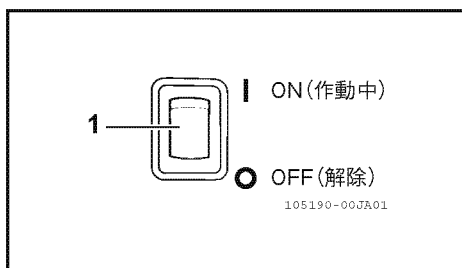
3. 燃料コック（1）を ON（開）にします。



4. チョークノブ（1）を始動にします。
なお、エンジンが暖まっているときは、チョークノブを始動にする必要はありません。



5. エコノミースイッチ（1）を“OFF”にします。

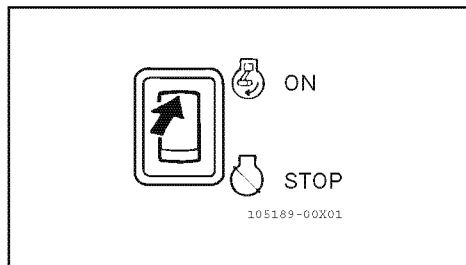


正しい運転操作（つづき）

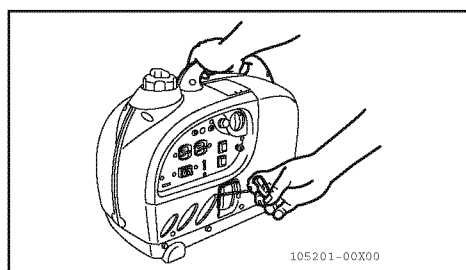
注記

コンプレッサ、投光機などの電気負荷が大きい場合はエコノミースイッチを OFF（解除）の状態で使用してください。

6. エンジンスイッチを ON（入）にします。



7. リコイルスタータハンドルを軽く引き出します。リコイルスタータハンドルが重くなった状態から勢いよく引きエンジンを開始させます。



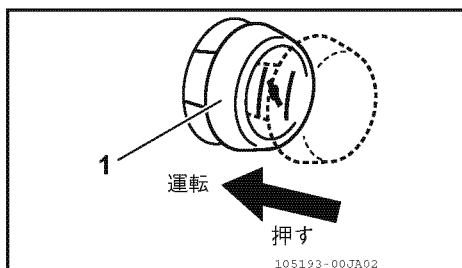
▲ 注意

- リコイルスタータハンドルを引くときは発電機が倒れないように手でハンドルを押さえてください。
- リコイルスタータハンドルを戻すときはゆっくりと戻してください。

注記

リコイルスタータハンドルを数回引いてエンジンが始動しないときは、チョークノブを運転にしてリコイルスタータハンドルを引いてください。

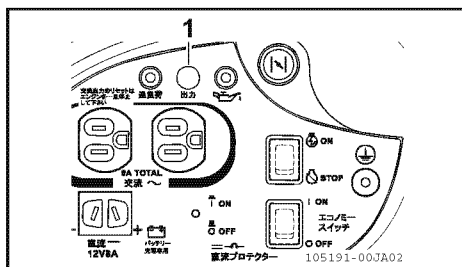
8. エンジン回転数が安定したらチョークノブ（1）を運転にします。



9. しばらく暖機運転します。

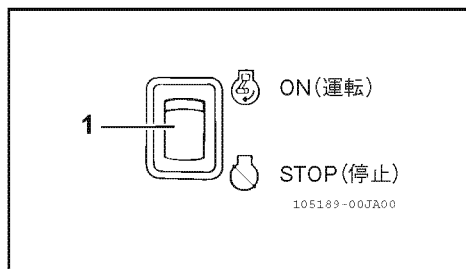
なお、気温が 3 ℃ 以下の場合エコノミースイッチが ON（作動中）でも自動的に約 5 分間 5000 r/min で暖機運転し、気温が 3 ℃ 以上の場合は約 3 分間 4000 r/min で暖機運転します。その後自動的に低速運転に切り替わります。

10. 出力ランプ（緑色）（1）が点灯しているか確認します。

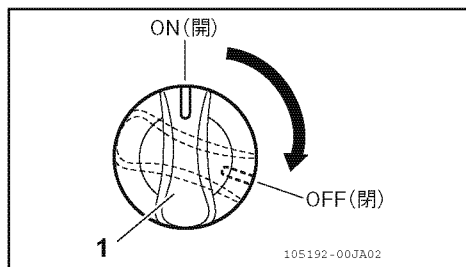


• エンジンの停止

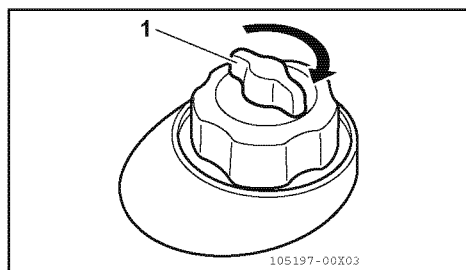
1. 電気器具のスイッチを OFF（切）にします。
2. 電気器具のプラグをコンセントから抜きます。
3. エンジンスイッチ（1）を STOP（停止）にします。



4. 燃料コック（1）を OFF（閉）にします。



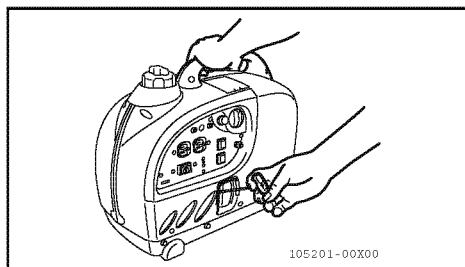
5. 燃料給油キャップつまみ（1）を右方向に止まるまで回します。



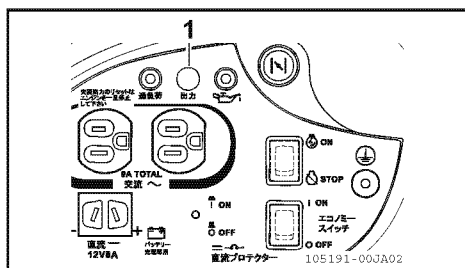
正しい運転操作（つづき）

• 交流電源の取り出しかた

1. リコイルスタータハンドルを引いてエンジンを開始します。

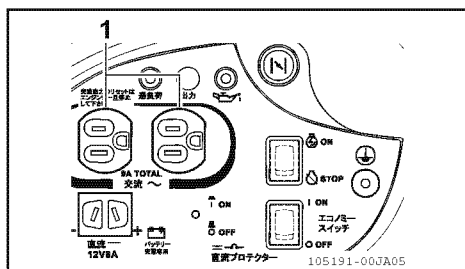


2. 出力ランプ (1) が点灯していることを確認します。



3. 電気器具のプラグを交流コンセント (1) に差し込みます。

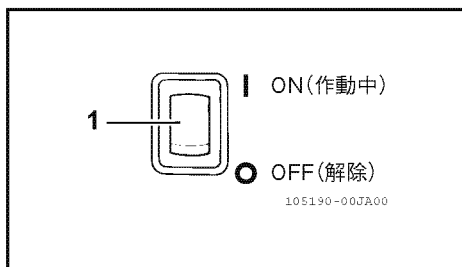
2 口合計消費電流 9 A



注記

電気器具のスイッチが OFF (切) になっていることを必ず確認してから差し込んでください。

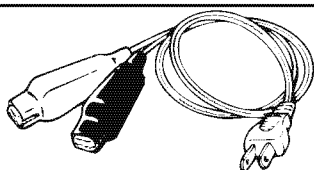
4. エコノミースイッチ (1) を ON (作動中) にします。



▲ 注意

- 直流 12 V コンセントは外部バッテリーを充電するためのものです。
- 直流 (DC) と交流 (AC) を同時に取り出す場合の交流 (AC) の器具の電力は次の範囲を守ってください。
60 Hz - 800 W まで
50 Hz - 800 W まで
- 充電時間はバッテリー液の比重によって異なります。

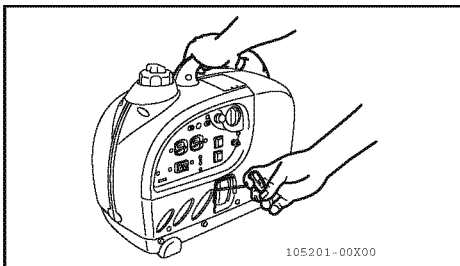
チャージコードアセンブリは有料で販売しています。



チャージコードアセンブリ
部品No. 184121-91880

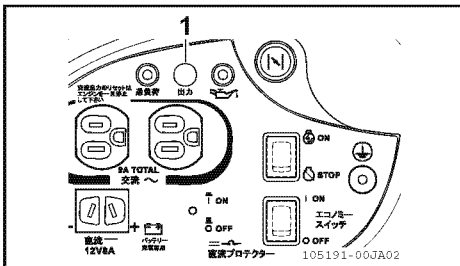
104813-00JA00

1. リコイルスタータハンドルを引いてエンジンを開始します。



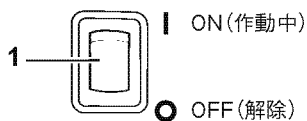
105201-00X00

2. 出力ランプ (1) が点灯していることを確認します。



105191-00JA02

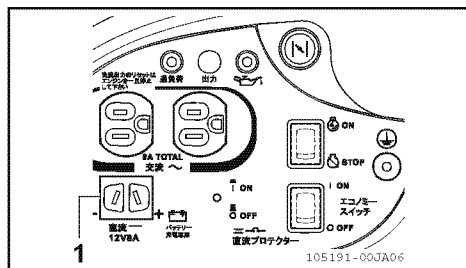
3. エコノミースイッチ (1) を OFF (解除) にします。



105190-00JA01

正しい運転操作（つづき）

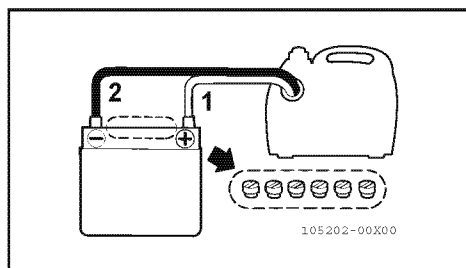
4. チャージコードアッセンブリのプラグを直流コンセント (1) に差し込みます。



⚠ 注意

チャージコードアッセンブリの取り外しは
エンジン停止後、取り付けの逆順で行って
ください。

5. チャージコードアッセンブリの赤色端子 **(1)** をバッテリーの⊕端子に接続します。



6. チャージコードアセンブリの黒色端子(2)をバッテリーの⊖端子に接続します。

▲ 注意

- 満充電になるための充電時間はバッテリーの種類、放電状態（比重）によって異なります。
- 詳細は充電するバッテリーの説明書を熟読してください。

● バッテリ充電の際の厳守事項

バッテリーは引火性ガスを発生しますので、取り扱いを誤ると爆発や火傷をすることがあります。バッテリー充電の際は次のことを厳守してください。

- ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけると、爆発を引き起こすことがあります。(火気厳禁)
- 閉めきったところでの充電は爆発を引き起こすことがあります。充電は通風のよい場所で行ってください。
- バッテリー液(希硫酸)が、目、皮膚、衣服に付くと失明や、やけどを引き起こすことがあります。取り扱いにはくれぐれもご注意ください。

応急手当方法／皮膚や衣服に付いたときは、直ちに多量の水で洗う。目に入ったときは、直ちに多量の水で洗い、医師の治療を受ける。

● 交流電源の使用可能範囲

交流電源の使用はおおむね次の電気器具の取り出し可能範囲まで使用できます。使用する電気器具の消費電力（W）をお確かめのうえ、ご使用ください。

電気器具	取り出し可能範囲	備 考
	G900iS	
	50 Hz / 60 Hz	
照明・電熱器・ラジオ・ テレビ・ステレオなど	100 V、900 W まで	力率＝1
電動工具類	100 V、680 W 程度まで	力率＝0.8～0.95
汎用モータ類	100 V、400 W 程度まで	力率＝0.4～0.75

▲ 注意

- 電気器具の合計負荷が発電機の取り出し可能範囲を超えた過負荷で使用しないでください。発電機損傷の原因となります。
- 精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類は電圧に敏感で、携帯用発電機からの電圧より均一の電圧供給を必要とするものがあります。このような機器を使用するときには、販売店に相談してください。
- 精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類への使用は、発電機のエンジンノイズ（原動機雑音）の影響を受けない距離を確保してください。また、近くにある他の電気製品がエンジンノイズ（原動機雑音）に影響されないことを確認してください。
- 医療機器への使用は、事前に医療機器会社・医師・病院などに確認のうえ、ご使用ください。
- 電気工具類・汎用モータ類の一部には取り出し可能範囲が上記表内の数値内でも起動電流が大きく使用できないことがあります。この場合は電気器具会社にご相談ください。

注記

取り出し可能範囲を超えた場合過負荷ランプ（赤色）が点灯しますので、電気器具の容量を再確認してください。

● 直流電源の使用可能範囲（12 V 外部バッテリー充電専用）

12 V-8 A まで

注記

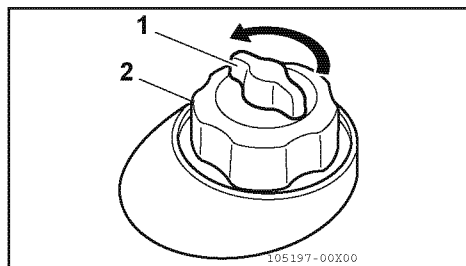
エコノミースイッチは OFF（解除）にしてください。

始業点検

● 燃料（無鉛ガソリン）の点検

燃料給油キャップつまみ（1）を左方向に1回転回します。

燃料タンクキャップ（2）をゆるめます。



注記

- 燃料はゆっくりと給油してください。
- 燃料は全部なくなる前に、できるだけ早めに補給してください。

注記

燃料給油キャップつまみは燃料タンク内と外気との通路を開閉する装置です。

発電機を運転する前にゆるめ（通路を開く）、運転を終了しあとに締め付け（通路を閉じる）ます。

燃料タンクキャップを外し、燃料（無鉛ガソリン）の残量を点検します。

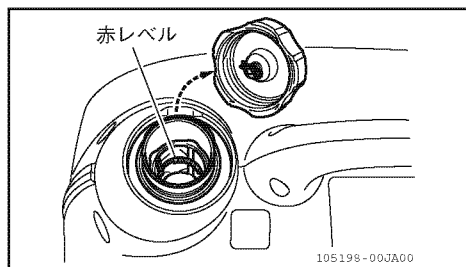
燃料タンク容量

2.5 L（赤レベルまで）

使用燃料

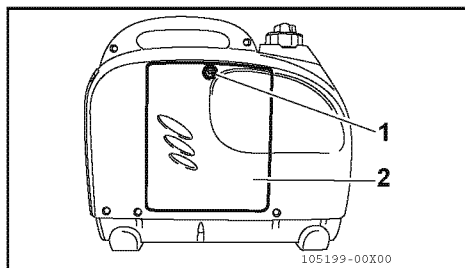
無鉛ガソリン

（自動車用レギュラーガソリン）

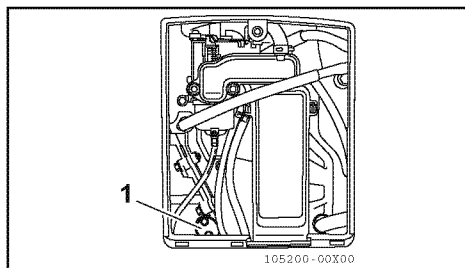


● エンジンオイルの点検

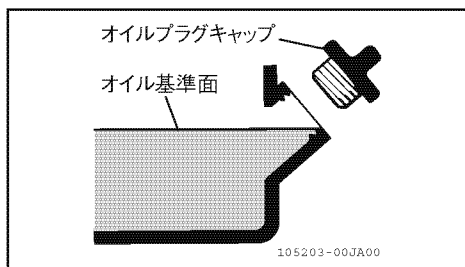
1. ボルト（1）をゆるめて、カバー（2）を取り外します。



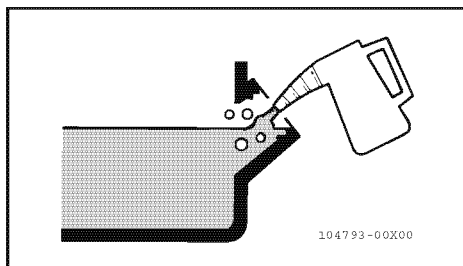
2. オイルプラグキャップ（1）を外します。



3. エンジンオイルがオイル基準面（注入口の口元）まであるか点検します。



4. エンジンオイルが基準面（注入口の口元）より少ない場合は、ヤンマー純正 4 サイクルガソリンエンジンオイルを注入口の口元まで給油します。



注記

- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行ってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ず拭き取ってください。

● その他の点検

P27 を参照してください。

点検

お客さまの安全と、発電機の故障と事故を未然に防ぐために実施してください。

危険

排気ガスは、一酸化炭素など有害な成分を含んでいます。換気の悪い場所や、風通しの悪い場所でエンジンを始動しての点検はしないでください。

警告

エンジン運転中および停止直後は、エンジン本体、マフラ周辺のプロテクタやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。手足で直接触れないでください。
やけどにご注意ください。

注意

- 重大な事故・故障の原因になりますので始業点検・定期点検を必ず実施してください。
 - 異常が認められた場合は、ご使用の方で自身またはヤンマー販売店で必ず整備を行ってください。
-

● 始業点検

お客さまが発電機をご使用するたびに点検を行ってください。

点検箇所に異常がある場合は、販売店で点検・整備をお受けください。

1. 燃料・エンジンオイルの量、燃料の漏れ、エンジンオイルの汚れ
2. 前回の運転で異常が認められた箇所
3. エンジンスイッチの作動具合
4. リコイルスタータの作動具合・スタータロープの損傷
5. エンジンのかかり具合および異音、排気の状態
6. コンセントの損傷

● 定期点検

お客さまのお申し付けにより、お買い上げの販売店（またはヤンマーサービス店）が実施します（有料）。お客さまの責任で必ず点検を受けてください。

● 始業点検項目

オイル警告ランプの作動
過負荷ランプの作動
出力ランプの作動
スタータハンドルの作動具合
スタータロープの損傷
エンジンのかかり具合、異音
排気の状態
燃料漏れ
燃料の量
チョークノブの作動具合
エンジンオイルの量、漏れ
コンセントの機能

● 6 カ月ごと点検項目

スパークプラグ、電極の焼け具合
スパークプラグ、電極の清掃
高圧コードの損傷
オイル警告ランプの作動
過負荷警告ランプの作動
出力ランプの作動
スタータハンドルの作動具合
スタータロープの損傷
エンジンのかかり具合、異音
排気の状態
エアクリーナエレメントの状態
燃料漏れ
チョークノブの作動具合
キャブレタの調整
燃料パイプの亀裂、損傷
エンジンオイルの量、漏れ
エンジンオイルの交換
コンセントの機能
マフラ取付部のゆるみ、損傷

マフラワイヤネットの清掃
スパークアレスタの清掃、損傷
本体各部の締め付け
各部の給油脂

● 12 カ月ごと点検項目

スパークプラグ、電極の焼け具合
スパークプラグ、電極の清掃
高圧コードの損傷
オイル警告ランプの作動
過負荷警告ランプの作動
出力ランプの作動
スタータハンドルの作動具合
スタータロープの損傷
エンジンのかかり具合、異音
排気の状態
圧縮圧力
エアクリーナエレメントの状態
カーボン除去（シリンダヘッド部）
バルブクリアランスの測定
燃料漏れ
チョークノブの作動具合
キャブレタの調整
燃料パイプの亀裂、損傷
エンジンオイルの量、漏れ
エンジンオイルの交換
過電流保護装置の損傷
コンセントの機能
マフラの機能
マフラ取付部のゆるみ、損傷
マフラワイヤネットの清掃
スパークアレスタの清掃、損傷
本体各部の締め付け
各部の給油脂

定期運転・定期交換

格納中であっても発電機を緊急で使うことが予測される場合は、ここに示す定期運転、定期交換を行って緊急時に備えてください。

● 定期運転

1 カ月に 1 度定期的に発電機を運転（約 10 分位）し、電気器具を接続して運転状態を点検してください。

● 定期交換

燃料をいつも満タンの状態で保管する場合は、燃料の変質による始動不良を防止するため 3 カ月に 1 回は燃料タンク内の燃料を交換してください。

注意

- 本書での指示なき作業などを行うときにも、必ずエンジンを止めてください。
 - お客さま自身が整備作業についてあまり熟知されていない場合は、ヤンマー販売店へ作業を依頼してください。
-

交換部品は、必ず純正部品、または指定されたものを使ってください。

定期点検・整備ご相談窓口のご案内

ヤンマー商品の定期点検および整備に関しましては、ヤンマー販売店にご遠慮なくご用命ください。

【ご注意】

1. 整備はヤンマー販売店へのお持ち込みを原則とします。
2. 現地整備の場合には別途出張料金を申し受けます。
3. 土曜、日曜、祝日、年末年始、その他夏期等休業させていただく場合があります。
4. 区画整理、電話局の新增設などにより、住所、電話番号が変更になることがありますのであらかじめご了承ください。

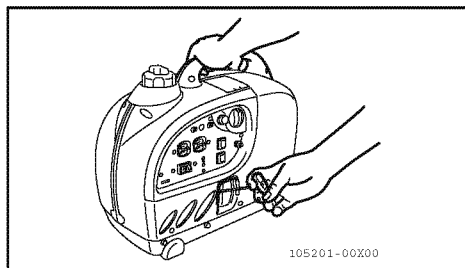
やさしい点検・調整

• エンジンオイルの交換

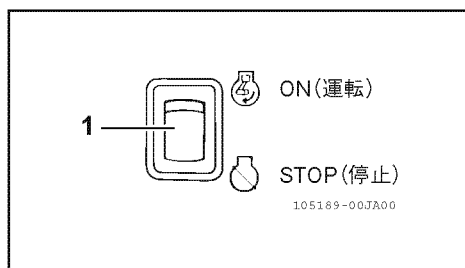
注記

- 油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられていますのでヤンマー販売店へご相談ください。
- 初回は 20 時間目、その後は 100 時間ごとに交換してください。

1. リコイルハンドルスタータを引いてエンジンを始動し 2 ～ 3 分暖機運転します。



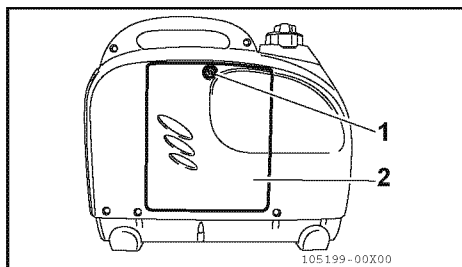
2. エンジンスイッチ (1) を STOP (停止) にしてエンジンを停止します。



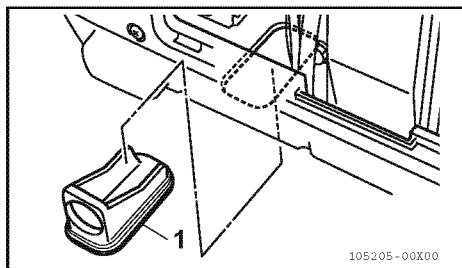
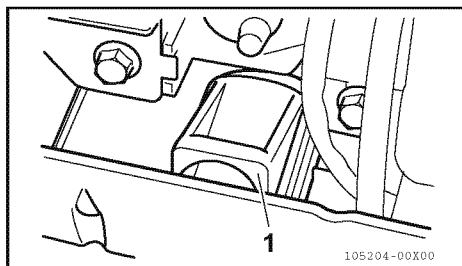
警告

エンジン停止直後は、エンジンオイルが熱くなっていますので、すぐに排出しないでください。

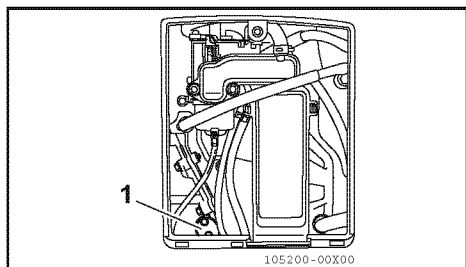
3. ボルト (1) をゆるめて、カバー (2) を取り外します。



4. オイルフィルラ (1) を下方に押して取り外します。



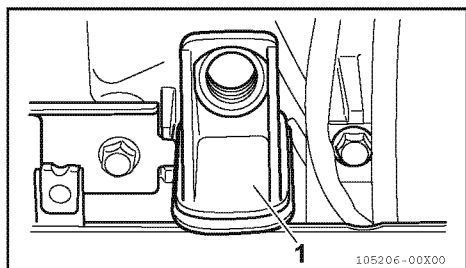
5. オイルプラグキャップ (1) を外します。



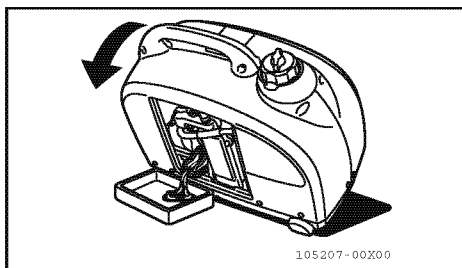
注記

排出するエンジンオイルを受け取る容器を用意してください。

6. オイルフィラ (1) をエンジンオイル注入口に取り付けます。



7. 発電機本体を傾けてエンジンオイルを抜きます。



やさしい点検・調整（つづき）

8. 新しいヤンマー純正 4 サイクルガソリンエンジンオイルを注入口の口元まで規定量給油します。

エンジンオイル規定量

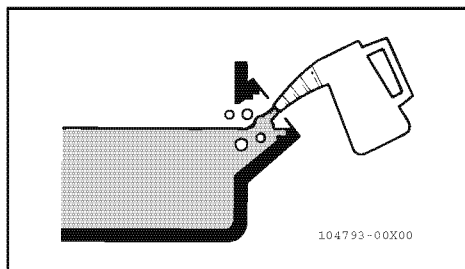
320 mL (320 cm³)

使用オイル

ヤンマー純正 4 サイクルガソリンエンジンオイル

API 分類 SE 級エンジンオイル

SAE 10W-30



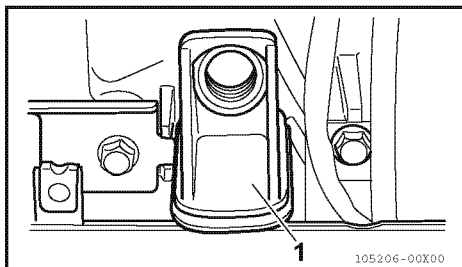
⚠ 注意

エンジンオイルを規定量以上に給油しますとエンジン不調になるおそれがあります。

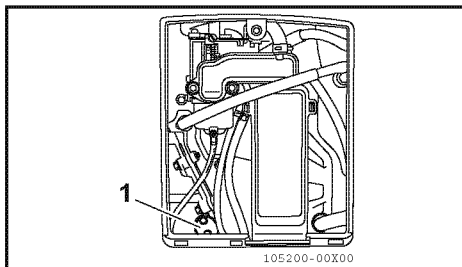
注記

- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行ってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ず拭き取ってください。

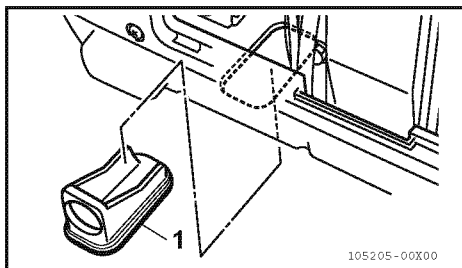
9. オイルフィラ（1）を外します。



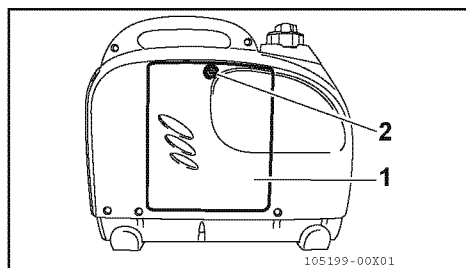
10. オイルプラグキャップ（1）を締め付けます。



11. 外したオイルフィラ（1）を本体底板にはめ込みます。



-
12. カバー（**1**）を取り付けて、ボルト（**2**）
を締め付けます。



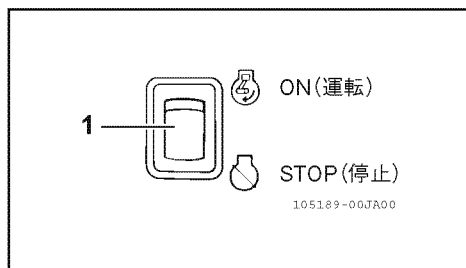
やさしい点検・調整（つづき）

• スパークプラグの点検と清掃

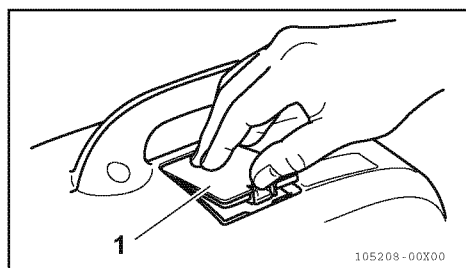
スパークプラグは、点検が簡単な重要部品です。

スパークプラグは、徐々に劣化しますので、定期的に外して点検を行う必要があります。

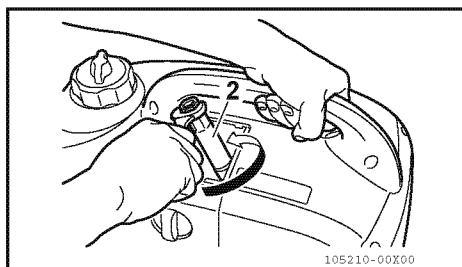
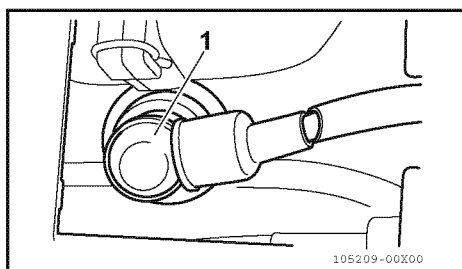
1. エンジンスイッチ（1）をSTOP（停止）にしてエンジンを停止します。



2. スパークプラグカバー（1）を取り外します。



3. スパークプラグキャップ（1）を取り外し、同梱の工具（2）を使用してスパークプラグを外します。



警告

スパークプラグの脱着の際は、碍子を損傷させないように注意してください。
碍子が損傷すると、電気が漏れて火災などを誘発するおそれがあります。

4. スパークプラグの焼け具合を見ます。
通常はキツネ色に焼けますが黒くくすぶっていたり白く焼けていたときはエアクリーナを点検します。
5. 電極付近の汚れ（カーボン）をワイヤブラシで落とします。

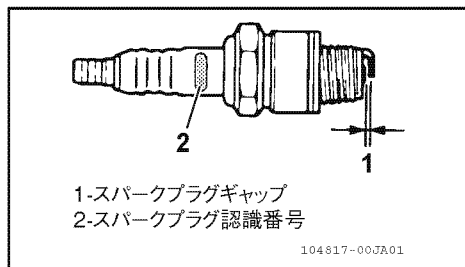
6. スパークプラグギャップを点検します。

スパークプラグ：

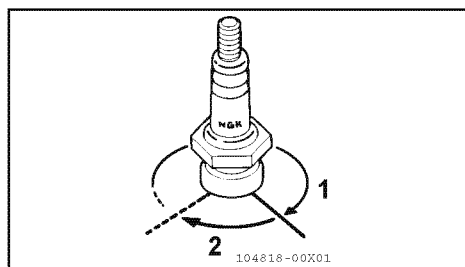
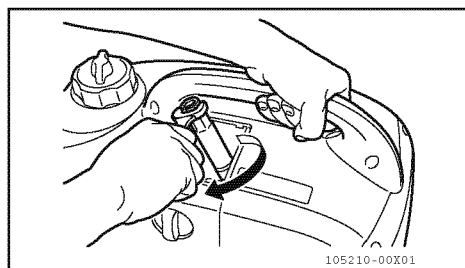
NGK CR4HSB

スパークプラグギャップ：

0.6 ～ 0.7 mm



7. スパークプラグを締め付けます。

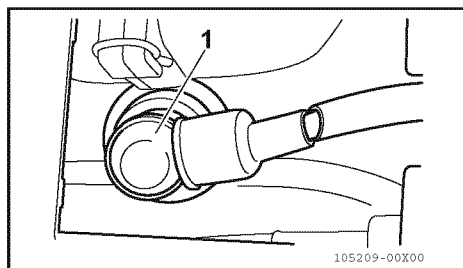


注記

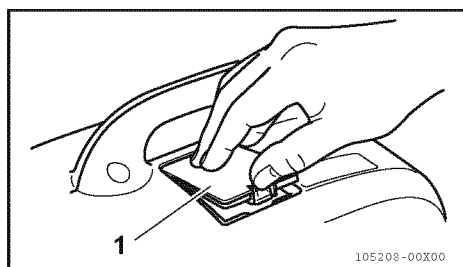
新しいスパークプラグを取り付ける際にトルクレンチが準備できないときは、指でいっばいに締め込んだあと（**1**）、プラグレンチを使って 1/4 ～ 1/2 回転（**2**）さらに締め込んでください。

できるだけ早い時期に、トルクレンチを使って正規の値（15 N・m ～ 20 N・m）で締めてください。

8. スパークプラグキャップ（**1**）を取り付けます。



9. スパークプラグカバー（**1**）を取り付けます。



やさしい点検・調整（つづき）

• エアクリーナエレメントの清掃

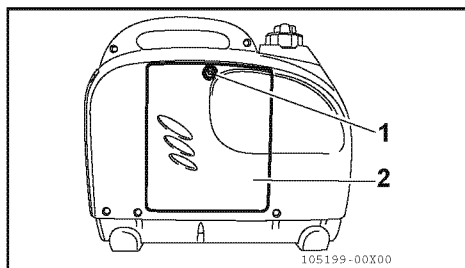
注記

ほこりのひどい場所で作業した場合は、定期点検時期より早めに清掃してください。

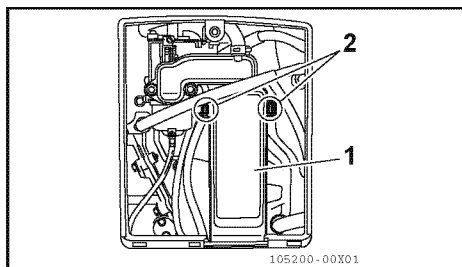
1. エンジンスイッチ (1) をSTOP (停止) にしてエンジンを停止します。



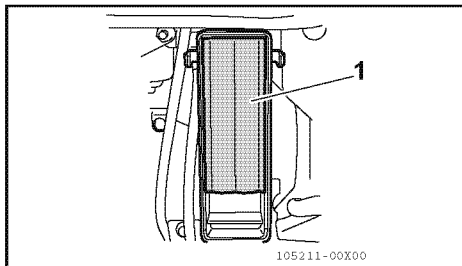
2. ボルト (1) をゆるめて、カバー (2) を取り外します。



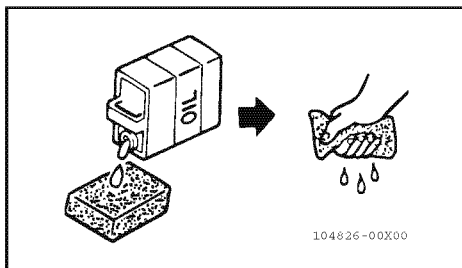
3. エアクリーナカバー (1) を固定しているクリップ (2) を外します。



4. エアクリーナカバーを外します。
5. エレメント (1) を外します。



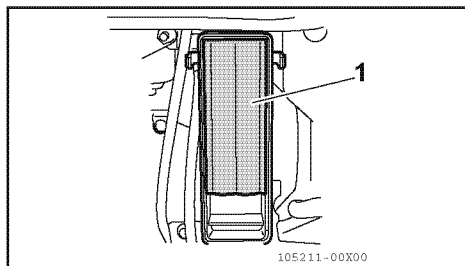
6. エレメントをきれいな混合油（白灯油 2～4：エンジンオイル 1）で洗淨します。
7. エレメントをエンジンオイルなどにひたし、その後点滴しない程度に余分なオイルを取り除きます。



▲ 注意

エレメントは絶対にきつく絞らないでください。破れてエンジンが不調になることがあります。

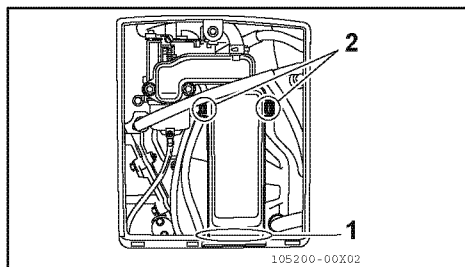
8. エレメント（１）をエアクリーナ本体にはめ込みます。



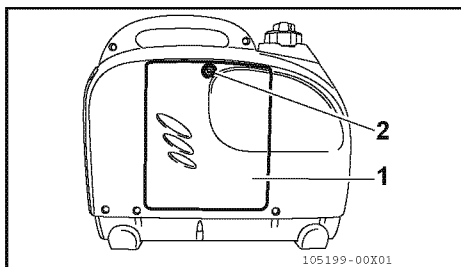
▲ 注意

エレメントを取り付けていない状態ではエンジンを絶対に始動させないでください。ピストンやシリンダの摩耗の原因になります。

9. エアクリーナカバーの突起部（１）を溝にはめ込み、クリップ（２）を取り付けます。



10. カバー（１）を取り付けて、ボルト（２）を締め付けます。



やさしい点検・調整（つづき）

• 燃料タンクフィルタの清掃

注記

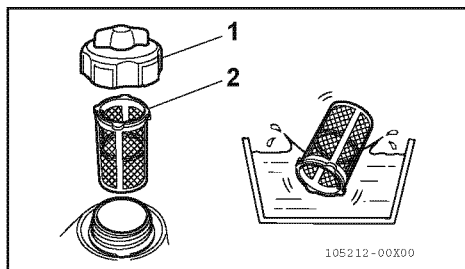
ストレーナが短期間に汚れる場合は、燃料タンク内に汚れがたまっていることがあります。

ヤンマー販売店にご相談ください。

1. エンジンスイッチ (1) を STOP (停止) にしてエンジンを停止します。



2. 燃料タンクキャップ (1) およびストレーナ (2) を取り外します。

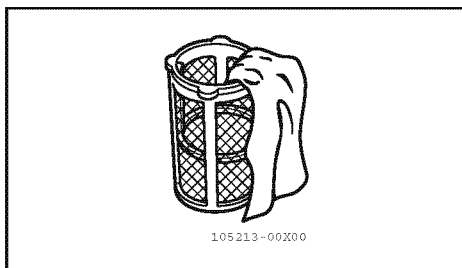


3. 溶剤を使ってストレーナを洗浄します。

注記

ストレーナが破損している場合は新品と交換してください。

4. ストレーナを拭いて燃料タンクの給油口に挿入します。



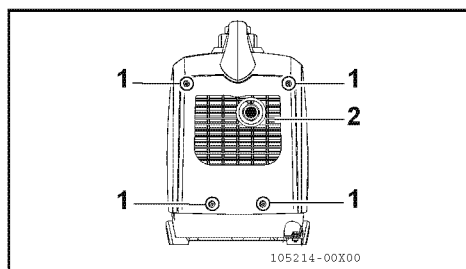
5. 燃料タンクキャップを取り付けます。

警告

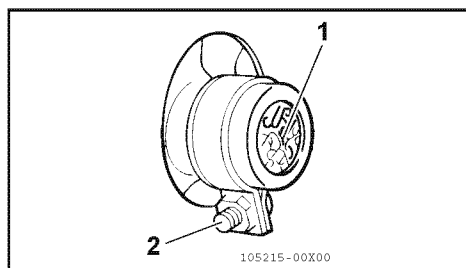
燃料タンクキャップはしっかりと締め付けてください。

● マフラワイヤネットの清掃

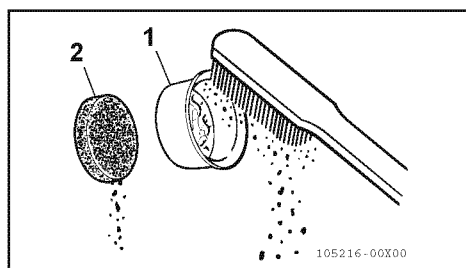
1. ボルト (1) をゆるめて、カバー (2) を取り外します。



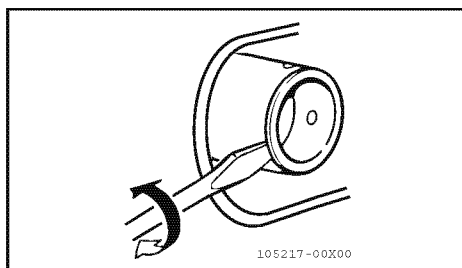
2. ボルト (2) をゆるめてマフラキャップとマフラワイヤネット (1) を外します。



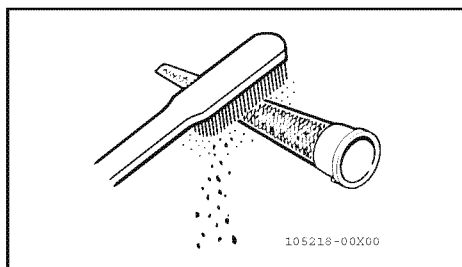
3. ワイヤブラシを利用してマフラキャップ (1) とマフラワイヤネット (2) の汚れを取り除きます。



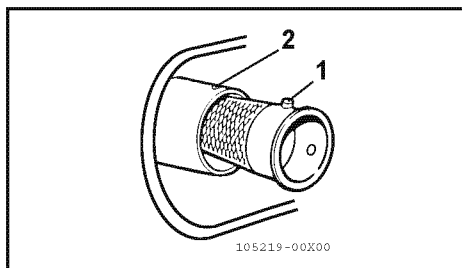
4. ドライバ (ー) を利用してスパークアレスタ (1) を外します。



5. ワイヤブラシを利用してスパークアレスタの汚れを取り除きます。



6. スパークアレスタをマフラに挿入し、スパークアレスタの突起 (1) をマフラの穴 (2) に合わせます。



7. マフラワイヤネットとマフラキャップを取り付けてボルトを締め付けます。
8. カバーを取り付けてボルトを締め付けます。

故障診断

故障は行き届いた点検整備により未然に防ぐことができます。故障の多くは取り扱いの不慣れや点検の不十分に起因しています。故障が生じたときはヤンマー販売店にご相談ください。

下記には最も考えられる故障を選びその想定される原因を列記しました。故障診断が不安なときは、できるだけそのままの状態でヤンマー販売店に連絡し専門技術者にご相談ください。

● エンジンが始動しない

1. 燃料系統（燃焼室に燃料が供給されていない）

燃料タンクが空になっている..... 燃料を補給する。

燃料パイプが目詰まりしている..... 燃料パイプを清掃する。
または販売店に相談する。

燃料コックに異物が混入している..... 燃料コックを清掃する。
または販売店に相談する。

キャブレタが目詰まりしている..... キャブレタを清掃する。
または販売店に相談する。

燃料給油キャップつまみが閉じている..... 燃料給油キャップつまみを左方向に
1 回転回す。

2. 電気系統（火花不足）

スパークプラグが汚れている..... スパークプラグを乾燥させて清掃する。

スパークプラグにカーボンが付着している ... カーボンを除去する。

点火系統が不良..... 販売店に相談する。

3. 圧縮系統（圧縮不足、漏れ）..... 販売店に相談する。

4. 潤滑系統（オイル不足）

リコイルスタータを引くと

オイル警告ランプが点灯する..... エンジンオイルを規定量まで補給する。

● 電気が出ない

過電流保護装置（電子ブレーカ）が

作動している..... エンジンスイッチをSTOP(停止)にし、
エンジンを停止する。

そしてまた ON（運転）にする。リコ
イルスタータハンドルを引いてエンジ
ンを再始動する。

運搬

発電機を自動車・トラックなどの車両で運搬する場合は、次の項目を守ってください。

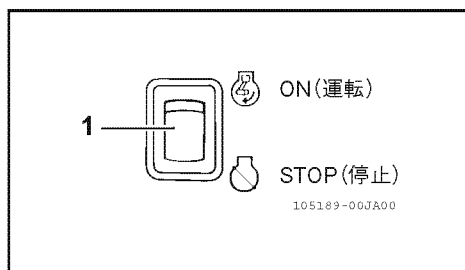
⚠ 警告

- 振動、衝撃などで燃料タンクの燃料（ガソリン）がこぼれるおそれがありますので、燃料タンクに燃料を給油したまま運搬しないでください。
- 燃料（ガソリン）が気化して引火するおそれがありますので、発電機を車内やトランクなどに積載したまま、長い時間直射日光の当たる場所に放置しないでください。
- 火災のおそれがありますので、予備の燃料（ガソリン）は鉄製の携帯タンクに保管してください。

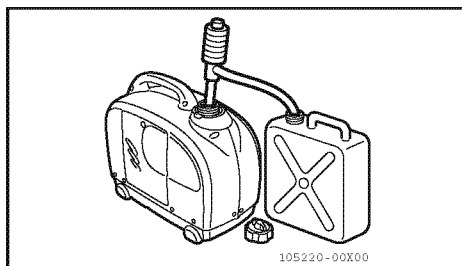
⚠ 注意

発電機の上に重いものを置かないでください。

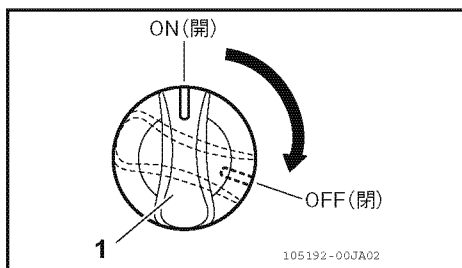
1. エンジンスイッチ (1) を STOP (停止) にします。



2. 燃料タンクキャップ、燃料タンクストレーナを外します。市販の給油ポンプを利用して燃料タンク内の燃料（無鉛ガソリン）を抜きます。

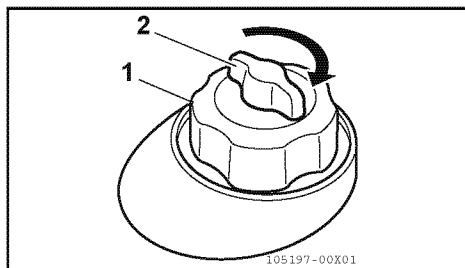


3. 燃料コック (1) を OFF (閉) にします。



運搬（つづき）

4. 燃料タンクキャップ（**1**）を確実に締め付け、燃料給油キャップつまみ（**2**）を右方向に止まるまで回します。



注記

燃料タンクキャップは確実に締め付けてください。

5. 発電機をロープなどで確実に固定します。

注記

発電機が移動、転倒、落下、破損などしないような位置に積載してください。

保管・格納

● 保管

使用後、または定期運転後次回の使用が3カ月以降になる場合は、1～14の作業を行って保管し、次に使用するときにご用意ください。

⚠ 警告

燃料のガソリンは高い引火性と爆発力がありますので、次の事項を必ずお守りください。

- 燃料の抜き取りは、換気の良い場所でエンジンを停止してから行ってください。
- 燃料の抜き取り中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また静電気が発生しないように注意して行ってください。
- 燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合は、直ちに医者診断を受けてください。また燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石鹸と水で直ちに洗い、衣類は取り換えてください。

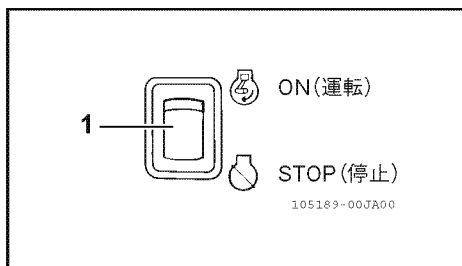
⚠ 注意

燃料が変質してエンジンの始動が困難になる場合がありますので燃料は抜いてください。

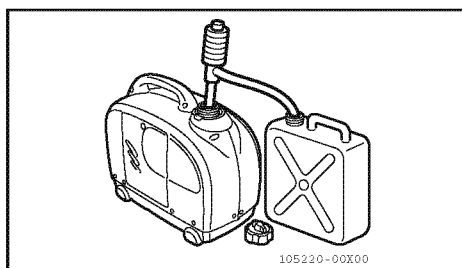
注記

排出する燃料を受け取る容器を用意してください。

1. エンジンスイッチ (1) を STOP (停止) にしてエンジンを停止します。



2. 燃料タンクキャップ、燃料タンクストレーナを外します。市販の給油ポンプを利用して燃料タンク内の燃料（無鉛ガソリン）を抜きます。

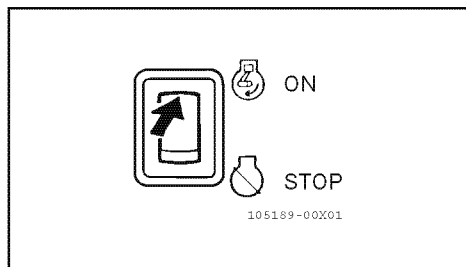


⚠ 注意

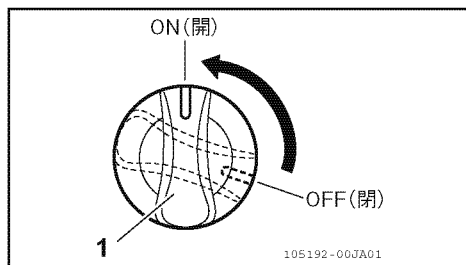
- こぼれた燃料は直ちに布きれなどで完全に拭き取ってください。
- 燃料タンクキャップは確実に締めてください。

保管・格納（つづき）

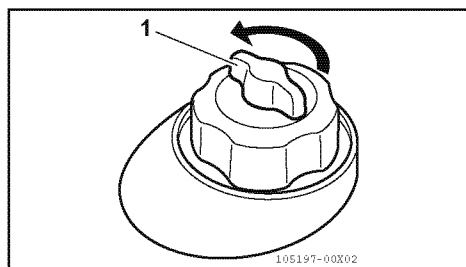
3. エンジンスイッチ（1）をON（運転）にします。



4. 燃料コック（1）をOFF（閉）からON（開）にします。

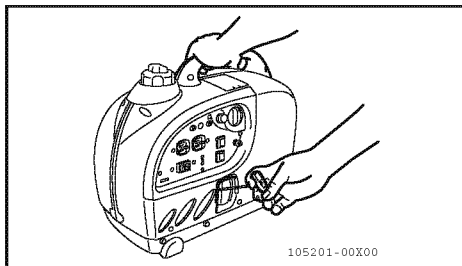


5. 燃料給油キャップつまみ（1）を左方向に1回転回します。



6. リコイルスタータハンドルを引いてエンジンを始動します。

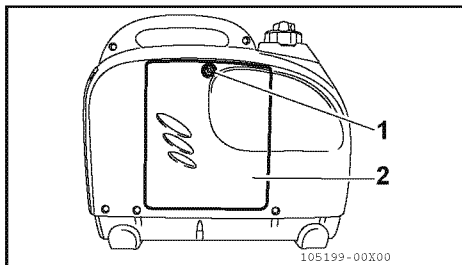
約20分前後でエンジンは「ガス欠状態」で停止します。



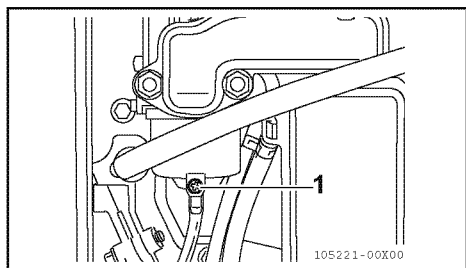
注記

- エコノミースイッチはOFF（解除）にしてください。
- 電気器具は接続しないでください。（無負荷運転）
- 燃料タンク内の燃料残量によって「ガス欠状態」になるまでの時間は変わります。

7. ボルト（1）をゆるめて、カバー（2）を取り外します。



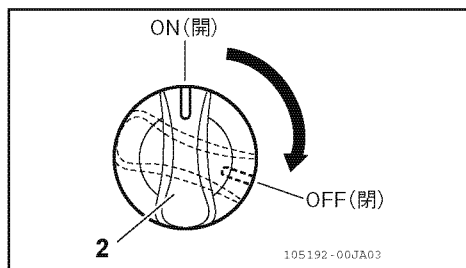
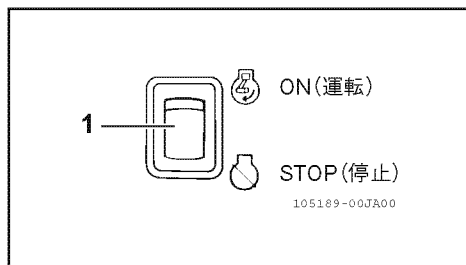
8. キャブレタのドレンスクリュ（**1**）を⊕ドライバでゆるめて燃料を抜きます。



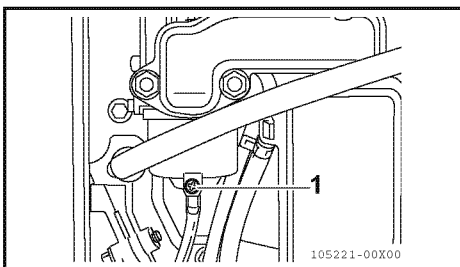
注記

こぼれた燃料は直ちに布きれなどで完全に拭き取ってください。

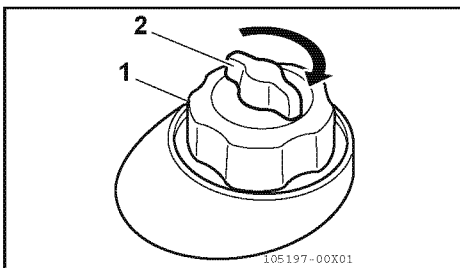
9. エンジンスイッチ（**1**）をSTOP（停止）、燃料コック（**2**）をOFF（閉）にします。



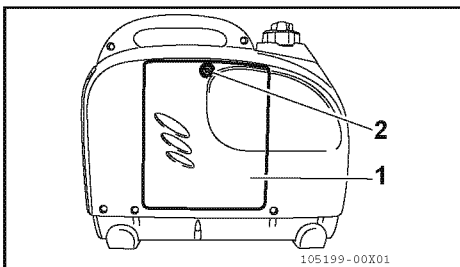
10. ドレンスクリュ（**1**）を締め付けます。



11. 燃料タンクキャップ（**1**）を確実に締め付け、燃料給油キャップつまみ（**2**）を右方向に止まるまで回します。



12. カバー（**1**）を取り付けて、ボルト（**2**）を締め付けます。

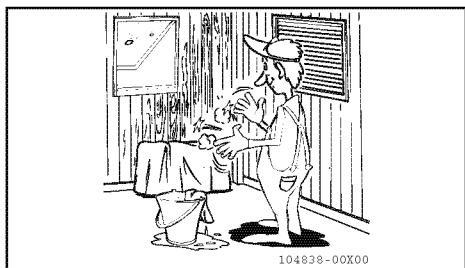


保管・格納（つづき）

13. ゆるみがあれば各ボルト・ナットを増し締めします。



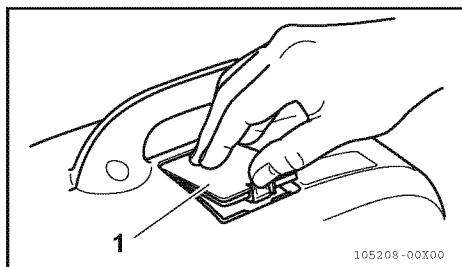
14. 室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管します。



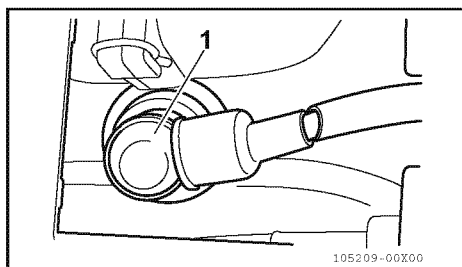
● 格納

長期間にわたって使用しない場合は、次のことを行って格納し、次に使用するときに備えてください。

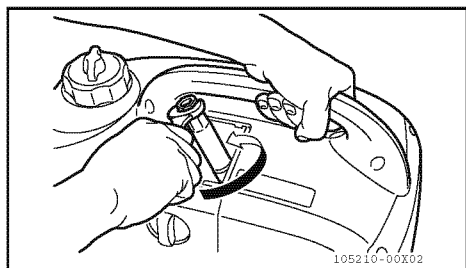
1. 保管項目の 1 ～ 13 の作業を行います。
2. スパークプラグカバー（1）を取り外します。



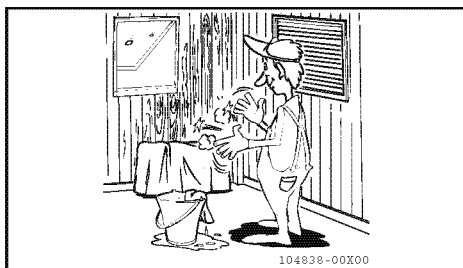
3. スパークプラグキャップ（1）を外します。



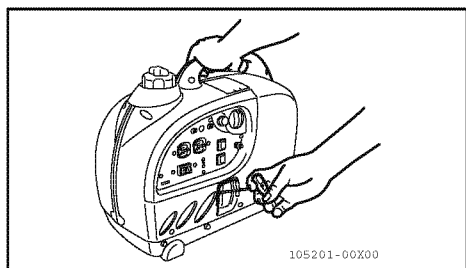
4. スパークプラグを外しプラグ孔よりエンジンオイルを3～5 mL 給油します。



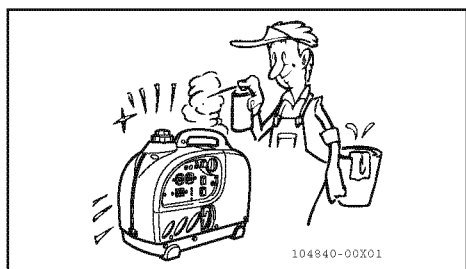
8. 発電機にカバーを掛け、室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管します。



5. スタータロープを2～3回引いたあと、スパークプラグを取り付けます。
6. スタータロープを引き重くなった状態（圧縮状態）にします。



7. 各部をきれいに清掃します。



仕様諸元

名称			G900iS
形式			多極回転界磁形
電圧調整方式			インバータ式
励磁方式			自己励磁式
力率			1.0
電圧変動率（整定）			3 % 以下
周波数変動率（整定）			0.1 % 以下
発 電 機	交流	定格周波数	50 Hz/60 Hz（切替式）
		定格出力	0.9 kVA（900 VA）
		定格電圧	100 V
		定格電流	9 A
	直流	定格電圧	12 V
		定格電流	8 A
装 備	駆動方式		エンジン直結
	交流コンセント		15 A × 2 個
	交流過電流保護装置		電子式
	直流コンセント		10 A × 1 個
	直流過電流保護装置		直流プロテクタ
エ ン ジ ン	エンジン種類		空冷 4 サイクルガソリンエンジン
	調速機形式		電子式
	冷却方式		強制空冷式
	点火方式		TCI
	スパークプラグ		NGK・CR4HSB
	プラグギャップ		0.6 ～ 0.7 mm
	エアクリーナ方式		半湿式（ウレタンフォーム）
	総排気量		50 mL（50 cm³）
	使用燃料		無鉛ガソリン（自動車用レギュラーガソリン）
	潤滑方式		強制飛沫式
	エンジンオイル		API 分類 SE 級エンジンオイル（SAE 10W-30）
	エンジンオイル規定量		320 mL（320 cm³）
始動方式		リコイル式	
燃料タンク容量（赤レベル）			2.5 L
連続運転時間（赤レベル）			約 12 ～ 4.3 時間（1/4 負荷～定格負荷）*1
乾燥重量			12.7 kg
全長×全幅×全高			450 × 240 × 380 mm
騒音レベル（7 m）			47 ～ 57 dB（A）（1/4 負荷～定格負荷）*1
バッテリー			なし

• この仕様諸元は改良のため予告なしに変更することがあります。

*1：エコノミースイッチ ON 時

索引

記号

⚠ 危険	3
⚠ 危険シンボルマーク	表紙裏 (表 2)
⚠ 危険ラベル	5
⚠ 警告	3
⚠ 警告シンボルマーク	表紙裏 (表 2)
⚠ 警告ラベル	6
⚠ 注意	4
⚠ 注意シンボルマーク	表紙裏 (表 2)
⚠ 注意ラベル	6

あ行

アース端子	7, 13
安全にお使いいただくために	3
運搬	42
エアクリーナエレメント	7
エアクリーナエレメントの清掃	37
エアクリーナケース	7
エアベントホース	7
エコノミースイッチ	7, 10
エンジンオイルの給油	17
エンジンオイルの交換	31
エンジンオイルの点検	26
エンジンが始動しない	41
エンジンスイッチ	7, 9
エンジンの始動	18
エンジンの停止	20
オイル警告装置	7, 9
オイル警告ランプ	7, 11
オイルプラグキャップ	7
おねがい	表紙裏 (表 2)

か行

格納	47
各部の取り扱い	9
各部の名称	7
過負荷警告ランプ	7, 11
環境への配慮	4
キャブレタ	7
給油	15
携帯工具	14
交流コンセント	7
交流電源の使用可能範囲	24
交流電源の取り出し口	21
故障診断	41

さ行

識別番号ラベル	1
始業点検	25, 27
始業点検項目	28
周波数切替スイッチ	7, 10
出力表示ランプ	7, 12

重要ラベル	5
仕様諸元	49
スパークプラグ	7
スパークプラグキャップ	7
スパークプラグの点検と清掃	35
整備ご相談窓口のご案内	30
その他の点検	26
その他ラベル	6

た行

正しい運転操作	18
チョークノブ	7, 12
直流コンセント	7
直流電源の使用可能範囲 (12 V バッテリ充電専用)	24
直流プロテクタ	7, 13
定期運転	29
定期交換	29
定期点検	27
定期点検ご相談窓口のご案内	30
電気が出ない	41
点検	27
ドレンスクリュ	7
ドレンパイプ	7

な行

燃料給油キャップつまみ	7
燃料コック	7, 12
燃料タンク	7
燃料タンクキャップ	7
燃料タンクフィルタの清掃	39
燃料（無鉛ガソリン）の給油	15
燃料（無鉛ガソリン）の点検	25

は行

バッテリー充電の際の厳守事項	23
保管	44
本体識別番号	1

ま行

マフラ	7
マフラワイヤネットの清掃	40

や行

やさしい点検・調整	31
要点シンボルマーク	表紙裏 (表 2)

ら行

リコイルスタータハンドル	7, 14
--------------	-------

や行

6 カ月ごと点検項目	28
12 カ月ごと点検項目	28

ヤンマー建機株式会社

本社

〒833-0055 福岡県筑後市大字熊野1717-1

営業部

北日本営業部

〒983-0025 仙台市宮城野区福田町南1丁目1番10号
電話(022)259-7201 FAX(022)259-7205

関東営業部

〒362-0025 埼玉県上尾市上尾下998-1
電話(048)778-4878 FAX(048)778-4880

中部営業部

〒497-0050 愛知県海部郡蟹江町学戸2丁目33番地
電話(0567)95-5355 FAX(0567)95-5099

西部営業部

〒577-0066 東大阪市高井田本通1丁目7番30号
電話(06)6783-1121 FAX(06)6783-7975

九州営業部

〒812-0857 福岡市博多区西月隈1丁目5番8号
電話(092)441-0928 FAX(092)474-6500

ヤンマー沖縄株式会社

〒901-2223 沖縄県宜野湾市大山7丁目11番12号
電話(098)898-3111 FAX(098)898-8082

2019年10月24日現在

取扱説明書

G900iS(2)

2009年 2月 初 版
2012年 6月 第2版
2015年 7月 第3版
2017年 3月 第3版 改訂1
2020年 5月 第3版 改訂2

発行：ヤンマー建機株式会社

制作：ヤンマーグローバルCS株式会社

YANMAR



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使いかたをすると、事故を引き起こすおそれがあります。お読みになった後も必ず製品の近くに保存してください。

ヤンマー建機株式会社

<http://www.yanmar.com>

0AKH2-JA0402
2020.05-2A